

女性や若者をはじめとした 消防団加入促進支援事業 実施結果報告書 (概要版)



鹿沼市消防団／鹿沼市消防本部
平成29年1月作成

I 背景

鹿沼市では、平成26年に雪害や突風被害、平成27年9月には関東東北豪雨により市民生活や財産に甚大な被害をもたらしました。

近年、自然災害の増加により、消防団員による救助活動、倒木等の除去活動の必要性が高まっており、救助資機材の1つであるチェーンソーを用いた災害対応能力の向上がこれまで以上に必要となってきました。

本市消防団では過去に、チェーンソーに係る基礎的な研修会や「伐木等の業務に係る特別教育」を開催しましたが、消防団員の中から「伐木等の業務に係る特別教育」の再開催を求める声が多くなってきていました。



竜巻による被害状況



雪害被害状況

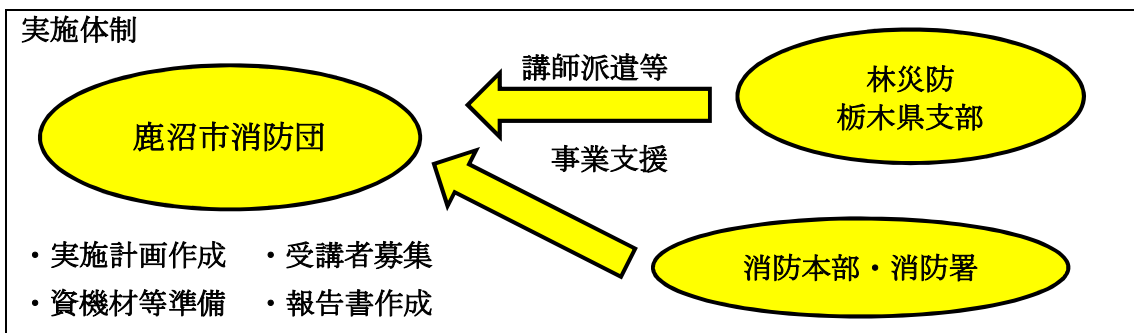


関東東北豪雨被害状況

II 事業の概要

災害時におけるチェーンソーを用いた救助活動等を安全かつ円滑に実施するために、労働安全衛生規則で定める「伐木等の業務に係る特別教育」の修了者を養成するとともに、特別教育修了における消防団加入のインセンティブを調査します。

実施期間 内容	平成28年						29年
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
事業計画・打合せ		←→					
事前周知・受講者募集			←→				
特別教育開催（3回）				←→			
報告書作成						←→	←→



Ⅲ 事業の実施結果

○ 講習内容

日時	1日目 (学科講習)	2日目 (実技講習)
会場	消防本部 大会議室	鹿沼市 板荷地内民有林
科目	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・伐木作業に関する知識 ・チェーンソーに関する知識 ・振動障害及びその予防に関する知識 ・関係法令等 	<ul style="list-style-type: none"> ・伐木の方法等 ・チェーンソーの操作 ・チェーンソーの点検及び整備 ・閉講式・修了証交付 ・アンケート調査

○ 受講者数

区分	開催日	定員	受講者数
第1回	平成28年10月15、16日	30人	22人(4)
第2回	平成28年11月19、20日	30人	22人
第3回	平成28年12月 3、 4日	30人	17人
計		90人	61人(4)

() 内は女性消防団員数

○ 本事業の実施状況



講義の状況



目立て、管理の説明



倒木の伐採



立木の伐採



修了式、認定証交付



分団部内の水平展開

IV アンケート結果（抜粋）

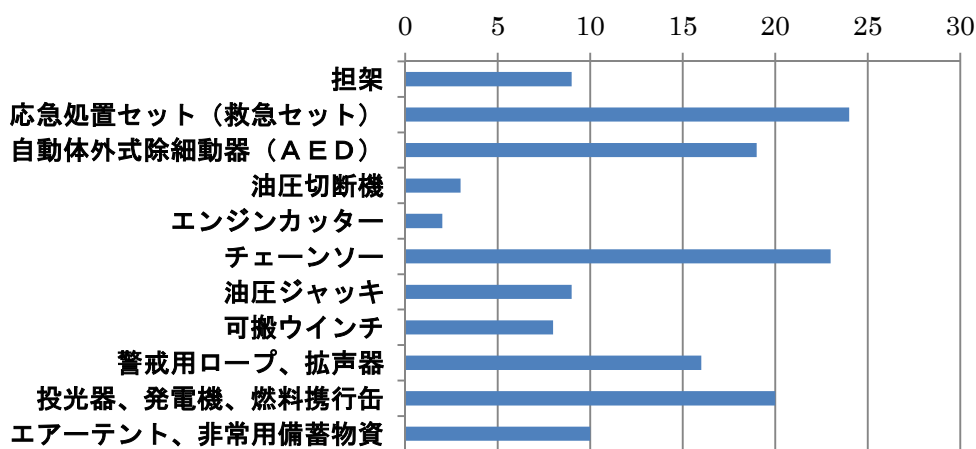
問4 今回の研修会を受講した感想を教えてください。（1つ）

- ・大変良かった・・・58%
- ・良かった・・・37%
- ・まあまあ良かった・・・5%
- ・あまり良くなかった・・・0%
- ・良くなかった・・・0%

問5 今回の研修会を受けて、今後の消防団活動にチェーンソーなどの救助資機材を活用していくことについて、どのように考えていますか。（1つ）

- ・積極的に活用したい・・・49%
- ・活用していきたい・・・44%
- ・できれば活用したくない・・・2%
- ・絶対に活用したくない・・・0%
- ・どちらとも言えない・・・5%

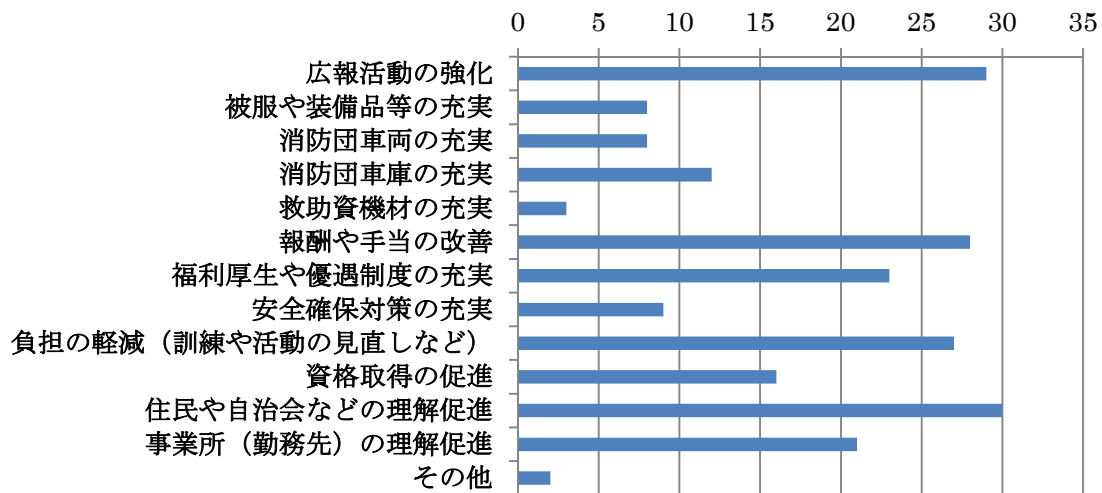
問7 平成26年2月に「消防団の装備の基準」が改正され、救助活動用資機材の配備が位置づけられました。あなたの所属する分団部では、どのような資機材が有効的だと思いますか。（いくつでも）



問8 消防団員に資格を取得する機会を設け、知識技能の向上を図っていくことは、幅広い層の人達の入団を促進し、団員を確保するために有効的だと思いますか。（1つ）

- ・とてもそう思う・・・39%
- ・ある程度そう思う・・・42%
- ・あまりそう思わない・・・14%
- ・そう思わない・・・0%
- ・どちらとも言えない・・・5%

問11 幅広い層の人達の入団を促進し、消防団員を確保するためには、どのような取組みが重要だと思いますか。(いくつでも)



V 本事業における成果と課題

1 自然災害の増加による消防団員の意識変化

近年の自然災害の増加は、本市のみならず全国的に大きな被害をもたらしています。消防団員はこれらの自然災害事案にほとんど出動しており、従来からの火災対応だけではなく、自然災害への対応能力向上を求める声が増えており、自然災害や救助活動へ積極的に取り組もうとする意識変化がおきています。

2 救助資機材の拡充と技能の習得

消防団員がチェーンソーなどの救助資機材を活用し、救助活動を行っていくことについては、多くの消防団員が前向きに考えており、災害対応能力の向上が消防団の魅力アップにつながっていくものと考えられます。

一方で、救助資機材の拡充は消防団員の魅力アップにつながる反面、技能習得が必要であり、危険も伴うことから教育訓練が必要不可欠です。これら財政面や時間的な課題を解決するには相応の時間が必要と考えられます。

3 資格取得によるインセンティブ

本事業の結果では、消防団員に対して資格取得の機会を与えることが、幅広い層の人達の入団を促進し、消防団員を確保するために有効的と考えられます。ボランティア精神と郷土愛のもと、日夜を消防活動に従事している消防団員ですが、相応の対価や優遇を望む者も少なくありません。「目に見えるメリット」、「実感できる優遇」として本事業は効果的であり、消防団員の技能と活動意欲の向上が図れるものと考えられます。

4 女性消防団員の活躍

本事業では4名の女性消防団員が参加し、その積極的な姿勢は男性団員にとっても刺激となっています。男性団員とのモチベーションの相乗効果にもなっており、本事業が女性にも興味を持って参加してもらえる加入促進の材料になる事が確認できたとともに、女性団員の活動は、消防団全体の活性化の重要な要素を占めていると感じました。

5 事業の継続とその課題

多忙な消防団員を対象に、本事業を継続して実施していくには、多くの消防団員が参加しやすい日時や会場の選定、講習資機材や会場の確保等が課題となります。

また、資格取得に伴う財政的な負担も大きな課題となります。継続的に実施するにはその費用対効果や費用負担の在り方等を検討していく必要があります。

6 分団部内での水平展開

本事業により多くの特別教育修了者を育成することが出来ました。また、本市消防団には林業従事者も多数在籍していることから、彼らを知識技術の指導伝達員とすることで分団部内での伝達講習訓練等を実施し、水平展開を図っていくことで、講習日程や費用の課題を解消していく一つの解決策だと考えます。

VI まとめ

本事業では、近年増加傾向にある自然災害への対応を背景に「伐木等の業務に係る特別教育」を開催し、チェーンソー特別教育修了における消防団加入のインセンティブと救助資機材の活用に対する意欲向上等の調査検証を行いました。

消防団員に資格取得の機会を与えることで、「目に見えるメリット」や「実感できる優遇」となり、報酬や手当の改善や福利厚生充実等と並ぶ処遇改善の一環として、幅広い層の人達の入団促進に寄与するものと考えられます。

本市に限らず、少子高齢化や雇用形態の変化、地域社会の希薄化などで、消防団の確保が困難になるかと思いますが、多角的な観点から消防団の魅力のPRや、活動環境の整備などを行い、魅力ある消防団作りを継続的に進めていきます。

女性や若者をはじめとした消防団加入
促進支援事業実施結果報告書【概要版】
鹿沼市消防本部 地域消防課
鹿沼市上殿町 520-1 電話 0289-63-1156

